

第11回

2023 9/7 THU

全自由席

18:00〈開場〉 18:45〈開演〉
三井住友海上 しらかわホール

新進演奏家コンサート



指揮／小松 長生
セントラル愛知交響楽団桂冠指揮者



ピアノ／
浅野 佑佳



ヴァイオリン／
新井 貴盛



ピアノ／
田舎片 麻未

プログラム

- リスト : ピアノ協奏曲第1番 変ホ短調 S.124, R.455 〈浅野 佑佳〉
メンデルスゾーン : ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 〈新井 貴盛〉
ベートーヴェン : ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 作品37 〈田舎片 麻未〉

お問い合わせ／チケット取扱い

山田貞夫音楽財団事務局 ☎ 052-533-6708

管弦楽／セントラル愛知交響楽団

主催：



公益財団法人
山田貞夫音楽財団



©五味明憲

小松 長生 Chosei Komatsu ~指揮~

福井県生まれ。東京芸大附属音楽高校入学辞退後、東京大学美学芸術学科、イーストマン音楽院大学院指揮科卒業。エクソン指揮者コンクール優勝。バッファロー管エクソン派遣指揮者、ボルティモア響アソシエート、キッチナー・ウォーター交響楽団及びカナダ室内アンサンブル音楽監督、リビウ国立歌劇場首席客演指揮者、武生(たけふ)国際音楽祭音楽監督、東京フィル正指揮者、セントラル愛知交響楽団音楽監督、コスタリカ国立交響楽団芸術監督等を歴任。これまでにモントリオール響、ケルン放送響、ブラハ放送響、北ドイツフィル、ボリショイ劇場、キーウ国立オペラ／バレエ、ソウルフィル、香港フィル、モスクワ放送響、『NHKららら クラシック』、『題名のない音楽会』、『東急ジルベスターコンサート』、TBS『砂の器』(千住明 作曲、羽田健太郎/日本フィル)、ベルリン・フィルハーモニー創立50周年記念日独第九演奏会、トヨタ・レクサス用マーク・レビンソン搭載10周年記念CD(新日本フィル)などを指揮。現在セントラル愛知交響楽団桂冠指揮者及び、コスタリカ国立交響楽団桂冠指揮者。福井県立音楽堂芸術振興アドバイザー(音楽)。自作の『新福井県民歌』を御前指揮(2018年9月)。著書に『リーダーシップは『第九』に学べ』(日本経済新聞出版社)他。音楽芸術学博士。



浅野 佑佳 Yuka Asano ~ピアノ~

名古屋芸術大学音楽学部演奏学科ピアノコース首席卒業。同大学大学院音楽研究科器楽専攻首席卒業、学長賞受賞。パリ・エコールノルマル音楽院ディプロムを審査員満場一致の首席、審査員特別賞受賞を得て取得。2023年度山田貞夫音楽賞、特選を受賞。第9回東京ピアノコンクール二台ピアノ部門第2位。第1回日本奏楽コンクールピアノ協奏曲部門第3位、併せてベスト・アンサンブル賞。第9回クオリアコンクール大学生部門第1位。第11回岐阜国際音楽祭コンクール一般1の部第1位。併せて優秀賞、岐阜県知事賞、文化人特別賞、準グランプリを受賞。大学在学中、学内オーディションを経て定期演奏会、コンチェルトの夕べ、室内楽の夕べ、新人演奏会、卒業演奏会など多数出演。「セントラル愛知交響楽団KAWAI室内楽シリーズNo.55」では、シューマンのピアノ五重奏等を演奏。「セントラル愛知交響楽団コンチェルトシリーズNo.44」では、ラフマニノフのバガニーニの主題による狂詩曲を指揮齊藤一郎氏と共演。第87回東京読売新人演奏会、第42回読売中部新人演奏会、2022年碧南市芸術文化新人演奏家コンサート、岐阜国際音楽祭フェスティバルコンサートなど、数々の演奏会に出演。2019年にトリオ(LUNETTA)を結成、毎年演奏会を開催し、好評を博す。山田貞夫音楽財団奨学金生。植田克己、ジョルジュ・ナドール、ジャンルイ・マンサール、マルク・アントワン・パンジョン、朽名恭子、中沖玲子の各氏に師事。現在、名古屋芸術大学音楽領域契約助手。また、名古屋音楽学校、名芸クリエイツ滝子教室の講師として後進の指導にも力を入れている。



新井 貴盛 Takamori Arai ~ヴァイオリン~

東京藝術大学を首席で卒業、並びにアカンサス音楽賞を受賞。第一回イブラ・グラント・アワード・ジャパンで審査員全会一致の優勝を果たし、審査委員長を勤めたデヴィ・スカルノ夫人との対談が弦楽器雑誌サラサテにて取り上げられるなど、注目を集める。審査員をつとめたヴァイオリニストの川井郁子氏に、「昔のレコードで聴く巨匠の演奏にも通じる、艶やかな音色」と絶賛される。2022年には米ニューヨーク・カーネギーホールでの演奏会、イシチリア島・イブラ音楽祭に出演した。これまでに日本音楽コンクール入選、バルトーク国際ヴァイオリンコンクールセミファイナリスト他、受賞歴多数。2014年度、ヤマハ音楽振興会音楽活動支援事業に選出される。2019年より、米ロサンゼルス・イバルビティ国際音楽祭に出演。国内でも千住明氏との共演などソロ、室内楽の分野で積極的な演奏活動をする一方、一般財団法人地域創造より全国の小中学校へ派遣されたアウトリーチ活動も行っている。東京藝術大学COI拠点アドバイザー、武蔵野音楽大学大学院嘱託演奏員。名古屋出身。鈴木メソッドにて宮島克実氏のもとでヴァイオリンの手解きを受けた。その後、名古屋音楽学校にて市川絵理子氏のもとで学び、私立南山高校卒業を経て東京藝術大学に進学。在学中には澤和樹、ダグラス・ボストック、高関健の各氏の指揮のもと芸大フィルハーモニアと共演し、何度もソリストとして選出された。これまでに清水高師、エドワード・シュミダー、ピエール・アモイヤル、エスター・ペレーニ、ヤン・ソシクの各氏に師事。室内楽を松原勝也、山崎貴子、市坪俊彦、青柳晋の各氏に師事。アメリカ・テンプル大学にフルスカラーシップ奨学生として留学。デイビッド・ヘイス氏指揮、テンプルシンフォニーオーケストラと共演。帰国後、東京藝術大学大学院博士課程を満期退学。



©井村重人

田舎片 麻末 Asami Inakagata ~ピアノ~

愛知県出身。愛知県立明和高等学校音楽科卒業。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を経て、東京藝術大学大学院音楽研究科音楽教育研究分野博士後期課程修了、博士号を取得。2023年度山田貞夫音楽賞、特選、山田弘子特別賞を受賞。現在、地元愛知県および関東地方を中心にソリスト、室内楽奏者として演奏活動を行う。愛知および東京にて、ソロリサイタル、デュオリサイタル等開催。これまでに、大友直人氏指揮、京都市交響楽団と共演。全日本学生音楽コンクール名古屋大会高校の部第2位。ピティナ・ピアノコンペティション全国大会F級ベスト賞、G級入選。ピアノフェスティバルin知多最優秀賞。ペトロフピアノコンクール第1位。日本ピアノコンクール招聘賞。市川市文化振興財団新人演奏家コンクールピアノ部門優秀賞。その他多数受賞。浜松国際ピアノアカデミー参加。Scholarshipを得てInternationale Sommerakademie der mdw - Universität für Musik und darstellende Kunst Wien参加。Internationale Klavierakademie in MurrhardtにてDiplom取得。優秀者によるGala-Abschlusskonzert等に出演。これまでに、室内楽を澤和樹、市坪俊彦、西谷牧人、東誠三、江口玲の各氏に、チェンバロを廣澤麻美氏に、音楽教育学を山下薫子、佐野晴の各氏に、ピアノを土居知子、清水皇樹、伊藤恵の各氏に師事。現在、愛知教育大学助教。

セントラル愛知交響楽団

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市との音楽文化普及事業委託契約による事業補助を受け1997年に現名称に改名。2009年一般社団法人となり、2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2023年創立40周年を迎えた。2019年4月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。2020年度より公益財団法人山田貞夫音楽財団指揮者オーディション最優秀者をアソシエイトコンダクター(任期2年)に迎えており、2023年度は松川智哉、リカルド・A・ゴンザレスの両名が就任。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、第九公演の他「超!有名曲」「Wコンチェルト」の各シリーズを自主公演として展開。バレエ、オペラ等の依頼公演にも数多く出演し、独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組んでいる。海外(2007年中国・2009年タイ・2017年韓国)でも公演し成功を収める。2015年半田市と音楽文化振興の協定、2019年一般財団法人稲沢市文化振興財団とも協定を締結。1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋芸術奨励賞」、2007年「第2回名古屋音楽ペンクラブ賞」受賞。